

2015/10/9 谷川岳幽ノ沢V字状岩壁右ルート

メンバー C L 齋藤、長谷部(亮)※会員外・HWV後輩

天気 曇り時々小雨後晴れ

行動時間 ロープウェイ駐車場 4:30→幽ノ沢出合 5:30→右ルート取付 9:00→
終了点 13:00 (石楠花尾根) →堅炭尾根 13:50→芝倉沢出合 16:10→
駐車場 17:30

なかなか仕事(ガイド)が多忙な後輩からのラブコールをやっとの思いで休暇を取り今回満を持して谷川へアルパインに行くことになった。

前日獅子岩でウォーミングアップをしていた後輩は先に水上入り。セブンで待ち合わせ。後輩「一足先に水上のセブンに着きました。こっちは小雨が降っています…。飯も食ってやることないので寝てます m()m…。」

私「小雨?マジか～。着いたら連絡するので待ってて。」

仕事も夕飯作りも気合で終わらせいざ出発して時に雨の連絡…。こっちは天気良かったので半信半疑で水上を目指す。水上に着くと道路がけっこう濡れている。それなりに降ったようだ。寒いので私はビールを1缶だけにしよう1本は銘酒「谷川岳」を買い足す。

ロープウェイ駐車場に移動、さっそく後輩との再会&入山祝いで祝杯。彼とは以前西沢溪谷で沢登りの時飲み過ぎた前科があるので今日は控えめに4合瓶。残れば持ち帰るはずが全部飲んでしまった。おかげですぐに爆睡だった。

翌朝、目覚ましのアラームを止めて二度寝したいくらいの快眠だったが無理やり起きる。

予定通り4時半には出発、外へ出ると微妙な雲の切れ間から星が見えそうな感じ。今日こそは晴れてくれよと思いつつ歩き出す。そんな期待を裏切るかのように次第に雲があたりを多いはじめ幽ノ沢出合に着いた頃には小雨が落ちてくる。

昨年の後輩と登った烏帽子沢奥壁南稜も雨だった。また試されているのか…。

後輩の「温泉でも入って二度寝しますか。」の言葉に心が揺れる。しかし重いガチャ背負って幽ノ沢出合まで来て朝食のパンをかじりに来たわけではないので、(私)「せっかくだから少し行けるところまで行って見てみようよ。ダメだったら温泉だな。」ということでガチャを付けて出発する。

幽ノ沢は水量が少ないもののきれいなナメや滝があるいい沢だ。ただ所々いやらしい箇所がある。後輩も一ヶ所どうしても一歩が出ないところがありお助けを出す。「先輩にガイド料払うようですね(笑)」、「高くつくよ〜」、「とりあえずカールボーデンまで行くか」、「レディボーデン、まだですかね(笑)。」雨のことを考えたくないのつまらない冗談を言いながら登っていく。途中の40mの大滝はノーロープでクリアー。初心者がいる場合は迷わずロープを出した方がよいと思われる。

二俣を右に入り次第に登っていくとカールの末端に出る。徐々に傾斜が出てくるのでうまい具合にルートを取って右俣リンネの左のカンテを目指す。



幽ノ沢 40m 大滝



中央の岩溝が右俣リンネ、右はV字前衛壁

一ノ倉のテールリッジとは違った嫌らしさだ。濡れているとテールリッジは滑るが幽ノ沢はそれなりにフリクションが効く。右フェースの取付きを目指すが次第に傾斜が増してくる。初心者がいれば早めにロープを出した方が良さそう。

右フェースの取付きがT2へのトラバース基点だがけっこう立っている。私達は濡れて立っているトラバースよりももう少し下部からトラバースしT2よりも下のテラスを取付きとした。T2へのトラバースは初見ではよく分からない感じ。

出だしは私のピッチ。出だしが嫌らしく細い灌木でランニングを取りながら騙し騙しV字のスラブへ。V字に入るところに左ルートからの水流が流れてくる。これじゃ西ゼンよりも傾斜のあるスラブの沢登りだ。いい感じに腐ったハーケンでランニングを取りその上部に抜けるがさらにいい感じの濡れ具合とランナウト。マジで 50m ロープをぎりぎりいっぱいまで伸ばし終了。その後ツルベで登るがお互い濡れていて悪い意味でいい感じ。下部は支点がほとんどなく精神衛生上よくないが上部に登るにつれて支点が出てきて、さらにピッチの終了点にはハンガーが出てきて精神安定が得られる。



濡れていなければ快適なスラブ



急に支点が出てきてズルい後輩

上部のルンゼのあたりから天候が回復してくるも相変わらず濡れており嫌らしいピッチ。この終了点手前が立っておりセカンドなのに突っ込む勇気が出ず左の笹エイドで抜ける。さらにチムニーの登攀。晴れてきてもドロドロ・ビショビショはごめんなので突っ張り等を使いながら抜ける。左に草付きリッジが見えたのもう終了の2級のピッチだと思いながら登り50mギリギリでピッチを切る。フォローで登ってきた後輩に「ここ4級のピッチですよ。2級だと思って登ったら余裕じゃないですか(笑)」と言われる。どおりで嫌らしいはずだ。2級にしてはおかしいなと思いながら、まあ確かに精神的には楽に登れたけど。

さらにここから1ピッチロープを伸ばして実質登攀終了。目の前に小岩峰が出てくるので間違えることはない。ここまで2人とも何も飲まず食わずでいたのでやっと行動食にありつく。あとは石楠花尾根(石楠花ならぬ笹藪尾根)をやぶこぎと所々の岩場を乗り越しおよそ50分ほどで堅炭尾根の稜線に飛び出す。稜線で後輩と祝福の握手。



手前の小岩峰が目印(岩峰は左に踏み跡有)



武能岳をバックに後輩と

稜線にでるとなかなかカッコいいピークが見える。どこのピークかと地図を見たら武能岳だった。マイナーなピークだがいつかは行ってみたいと思う。

さて堅炭尾根は破線ルート。登攀は終わったがどんな出会いが待っているのだろうか。ここからが第二の核心であった…。ぬかるんで足元はとられるし、滑る草付き・岩場に下山のペースが上がらない。やっと芝倉沢に出てからも何ヶ所かルートが崩落している。ここは所々沢を下降した方がかえって下りやすかった。稜線から2時間強でやっと国道にでる。あとは平坦な国道を後輩と山の話をして歩いている、登山指導センターへ下山の挨拶を済ませるとあたりはほんのり薄暗くなっていた。

私と長谷部(亮)君とは去年の一ノ倉沢が雨、今年の幽ノ沢も雨、そして稜線で晴れるという嫌なジンクスだ。後輩に言わせるともっと「徳」を積まないといけならしい。来年はもっと「徳」を積んでピーカンの谷川で登攀したい。それともう濡れた岩は沢以外登りたくないのだがどちらも沢だけに三度目の正直がどうなることやら。でも今度雨だったら間違いなく二度寝&温泉を決行しようと心に誓った今回の幽ノ沢であった。

(記録・文 齋藤)

※幽ノ沢V字右ルート グレード3級(今回濡れていたなので4級位?)